

佐藤一斎著、川上正光全訳注「誌四録(四)」講談社学術文庫、講談社 1981年12月10日刊を読む

少にして学ばざれば、壮にして惑う

あさ くら すなわ ひる う しょう まな すなわ そう まど
 朝にして食わざれば、則ち昼にして饑え、少にして学ばざれば、則ち壮にして惑う。
 う もの な し の べ まど もの いかん べ
 饑うる者は猶お忍ぶ可し。惑う者は奈何ともす可からず。

〔訳文〕

朝食をしなければ、昼には空腹を感じず。同じように、少年時代に学問をしておかないと、壮年になって、物事の判断などに疑うことになる。

空腹であることはまだ辛抱が出来るけれども、知識がなくて事の判断に惑うのはどうにもしてやれない。

P134

〔コメント〕

少年時代の学問がいかに大切かを説く、佐藤一斎の「言志四録」。いつも手元におき、折に触れて読むのに最もふさわしい日本の古典の一つと考える。

— 2012年5月16日 林 明夫記 —